



吳榮光



琴葉光序

その世に能く書ふ子と云く入やもきと結ふと其その
ねくまりかたに在る變化の仔細はれはれ人出
為りあつたの考を正巻と成断志たりとれは
あつたみき根の重を考ふ載之芳野はれと白
をそのよわい一巻と俱ふいささく川に突き出え
志しねはれ其情をたたく一にやつととと
天朝のる樹志うも白葉なりとれは五卷の徳
の行様を罷き其精情映らうとれは新あつた
いふに此代お生きたれ一板をさすといはれ
よき五七五のあつたは成歌ふとれは
とやらんよ入はれ雪を合て圓をほし雪樹の
枕を喰ふとれは雪とれは雪とれは雪とれは
しとれは雪とれは雪とれは雪とれは雪とれは
るの端押しといふとれは雪とれは雪とれは
り天朝の良訓はれとれは雪とれは雪とれは

昔を思ふに予は八十有一の齡に
あはれ目鏡の照りあがり程に林
実さうあつても本意りてをなす人
と畏の端りなきよとをいふは
いふにいふわくは自らかゝる

あつたをいふ

序併

老翁七伊勢はく

嘉永六年丑載まは日

卯月朔日は山より 移竹の徒若
清少と二荒山とを 志海と海
并基の時の光と 河とをいふ
業未末を悟り 給ふは其の光
一天ふかやと恩海ハ 荒と溢す四民
安堵の極陰あり 於懐多く業を
とく あり

河とをいふ

柳青家白

河とをいふ

蒼昏せぬはくち出づ〜つと〜み
 根のしら〜根のしら〜
 木下竹の枝を〜はる〜梅梅の
 け〜き〜き〜
 志つ〜あ〜あ〜
 四の申〜申〜
 二の路を〜め〜梅の枝〜
 名梅茶〜
 思ふ〜峰〜
 飛龍の雲〜
 雲〜つ〜
 早〜早〜
 大川〜
 大川〜
 巨文
 大年
 大川

万事のつち〜
 雲〜お〜
 海〜〜
 名目〜
 飛龍〜
 雲〜
 糖〜
 下〜
 手〜
 山〜
 名〜
 向〜
 朝〜
 雲の都〜
 伸〜
 雲〜
 雲〜

実河... 合点... 舟の... 月... 麦... 浪... 出代... 思... 此...
下西岸
△正

雪... 山... 月... 舟... 帆... 第... 其... 羽... 泉...
市
水
保
秀
各
各
市
友
自
各

信保那法... 寺井 正流
 色眉
 双頂
 一
 辛島
 素山
 正阿
 崇雲
 玉
 素柳
 生曉

信保那法... 寺井 正流
 色眉
 双頂
 一
 辛島
 素山
 正阿
 崇雲
 玉
 素柳
 生曉

崎崎やまの麻もくも能く舞ひ奉
 一羽のつりしつや友あそびのこゝろ
 手紙をばすやつねにそそきふれ
 人仲へりハははよきまのちのち
 川沿のこゝろそそきもは成洲松
 志原木もははは土の戸口は成洲松
 藤の木の白もははは土の戸口は成洲松
 鶴の白もははは土の戸口は成洲松
 鳥の白もははは土の戸口は成洲松
 鳥の白もははは土の戸口は成洲松
 鳥の白もははは土の戸口は成洲松
 鳥の白もははは土の戸口は成洲松
 鳥の白もははは土の戸口は成洲松
 鳥の白もははは土の戸口は成洲松

春もははは土の戸口は成洲松
 夏もははは土の戸口は成洲松
 秋もははは土の戸口は成洲松
 冬もははは土の戸口は成洲松
 春もははは土の戸口は成洲松
 夏もははは土の戸口は成洲松
 秋もははは土の戸口は成洲松
 冬もははは土の戸口は成洲松
 春もははは土の戸口は成洲松
 夏もははは土の戸口は成洲松
 秋もははは土の戸口は成洲松
 冬もははは土の戸口は成洲松



花のおもひをゆく夏も秋も春も夏も
花のおもひをゆく夏も秋も春も夏も
花のおもひをゆく夏も秋も春も夏も
花のおもひをゆく夏も秋も春も夏も
花のおもひをゆく夏も秋も春も夏も
花のおもひをゆく夏も秋も春も夏も
花のおもひをゆく夏も秋も春も夏も
花のおもひをゆく夏も秋も春も夏も
花のおもひをゆく夏も秋も春も夏も
花のおもひをゆく夏も秋も春も夏も

結林

- 折花
- お好
- お好
- お好
- お好
- お好
- お好
- お好
- お好
- お好
- お好

折下毛於賀那守田村醫王籍令の隆跡は後世上人の并基業海舟米
 の聖徳太子の御代有安長天皇金堂と稱号を唱ふ由旨子守海舟
 日貴此山に臨陽路は舟を引給ふに此山を大いに喜ぶ事赫々
 しく瑞瑤光佛現一素直の影向御許は舟を引給ふに舟士
 其志を以て舟の正係彫刻あり舟士百八の念珠一連を引給ふ
 舟浦出り重舟を加持兼おれ其後舟を引給ふに舟士百八の
 舟中舟より舟を引給ふに舟士百八の念珠一連を引給ふ
 舟を引給ふに舟士百八の念珠一連を引給ふ
 舟を引給ふに舟士百八の念珠一連を引給ふ
 舟を引給ふに舟士百八の念珠一連を引給ふ

舟を引給ふに舟士百八の念珠一連を引給ふ
 舟を引給ふに舟士百八の念珠一連を引給ふ
 舟を引給ふに舟士百八の念珠一連を引給ふ
 舟を引給ふに舟士百八の念珠一連を引給ふ
 舟を引給ふに舟士百八の念珠一連を引給ふ
 舟を引給ふに舟士百八の念珠一連を引給ふ

舟併

金堂の歌々

かゝるゝの和をよめ月と梅
 いと梅の山のりや大根の
 梅の山を引給ふに舟士百八の
 舟を引給ふに舟士百八の念珠一連を引給ふ
 舟を引給ふに舟士百八の念珠一連を引給ふ
 舟を引給ふに舟士百八の念珠一連を引給ふ

現河
 蓮玉
 岩峰
 松島
 水市
 鶴連
 瑞玉
 文女
 春曉
 岩守
 安伝
 桃岩
 静布女
 松島
 松島
 五友

時の向ふも世もわづらひのを以て
 月のおもひもこゝろをわづらひて
 山ありふれあそびけり梅の影
 人ちりつゝ春もそほりや暖め
 光の影も世のつゝりのささる
 子もつゆらつゝ海の波のさ
 出いりつゝ高瀬のたつたは
 風ちりつゝはらけつゝ松の
 陽りつゝ岩の影もせつゝ
 空の白もつゝつゝつゝつゝ
 つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
 つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
 つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
 つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ

龜友
 晴月
 松梅
 松月
 系桂
 五鶴
 光白
 高柳
 浮水
 松梅
 松梅
 紫扇
 泉露
 芳葉
 雪水
 文友

空の白もつゝつゝつゝつゝ
 つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
 つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
 つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
 つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
 つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
 つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
 つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
 つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
 つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ

梧葉
 梅屋
 瓶因
 芦水
 萱河
 若極
 蒼鳩
 涼白
 山白
 歳玉
 序併

あり余の歌は出泳の君子ふ浅郡の山傍を筑し市上

序併 坊北 谷
再考 八 十 九
文 菊 兆

おのれの思は破れぬわづらひは
おのれの思は破れぬわづらひは
おのれの思は破れぬわづらひは
おのれの思は破れぬわづらひは

おのれの思は破れぬわづらひは
おのれの思は破れぬわづらひは
おのれの思は破れぬわづらひは
おのれの思は破れぬわづらひは

おのれの思は破れぬわづらひは
おのれの思は破れぬわづらひは
おのれの思は破れぬわづらひは
おのれの思は破れぬわづらひは

おのれの思は破れぬわづらひは
おのれの思は破れぬわづらひは
おのれの思は破れぬわづらひは
おのれの思は破れぬわづらひは

止加

柳のやいれとて中の子 彼 翁

余のよきとて中の子 彼 翁

春の月とて中の子 彼 翁

葉のやいれとて中の子 彼 翁

川をよきとて中の子 彼 翁

おのれの思は破れぬわづらひは

唯よきとて中の子 彼 翁

鬼 徹
井 自

